

一九六二年一月二十五日 印刷



第45卷 第6号

史学・地理学・考古学

「鎌倉殿御使」考……………田 中 稔 (1)
 ——初期鎌倉幕府制度の研究(1)——

対満政策における西園寺=林
 路線から桂=小村路線への転換……………中 山 治 一 (24)
 ——日露戦後の満州問題——

均田法の系譜……………田 村 実 造 (45)
 ——均田法と計口受田制との関係——

叙任権闘争前のテューリンゲンに
 おける貴族支配……………早 川 良 弥 (66)

古鏡より観た日本の上古……………梅 原 末 治 (97)

研究ノート

イギリスにおける封建の所領形成への一過程 ……………富 沢 靈 岸 (107)
 ——folkland と bookland——

学界動向

アメリカにおける中国研究瞥見 ……………宮 崎 市 定 (128)

書 評

八木哲浩著：近世の商品流通 ……………朝 尾 直 弘 (136)

紹 介

日鮮古史彰考 加計町史 奈良県政七十年史

学界消息

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部
国語学国文学研究室

この加工業地帯たる灘目絞油業の成立こそ、瀬戸内海を東上してくる西国種の大量的存在を前提とするものであつた。

また、幕府による天保の仕法改正をもたらし、大坂株仲間の独占を大きく後退させ、局地内における無株商人の活動を促すことになつた、摂河在々絞油業と大坂油仲間との対立は、逆に、諸國からの廻着種物・出油の減少に原因していた。

本書が明らかにしたこれらの事實は、畿内の局地的分業圏発展の主な諸画期に、殆どつねに、畿内以外の地域からする外部的な隔地間流通に属する諸要因が、重要なはたらきをなしていたことを示している。

隔地間流通と局地内流通との有機的統一的な把握は、これらの事實それ自身がわれわれに要請しているところである。畿内にとつて外から働く隔地間流通構造の変動には、幕藩制的規制によるほあいも、それを解体する動きによるほあいも存在するであろう。何が幕藩制であり、何がそうでないかは、これら外部的要因を、その発生地において考察することも、もちろん必要であるが（そのために研究の協力体制がある）、畿内内部において、その変動が直接生産者の生産と流通の構造におよぼすひずみを歴史的に追及することによつて、幕末期の畿内に形成された局地的市場圏の構造的特殊性を明らかにすることができ、ひいては社会構造としての幕藩制の特質をも究明しうるのでないだろうか。

在郷商人論は、そのとき、もう一度書き直されるだろう。

(B6判三四四頁 一九六二年四月 稿書房刊行 定価五五〇円)

執筆者紹介

田中稔 奈良国立文化財研究所員

中山治一 大阪市立大学教授

田村実造 京都大学教授

早川良弥 京都大学大学院学生

梅原末治 天理大学教授

富沢靈岸 金沢大学助教

宮崎市定 京都大学教授

朝尾直弘 京都大学研修員

袖工と荘園

赤松 俊秀

宋代 梟の符吏

佐竹 靖彦

説史会例会

六月二十九日

陳列館会議室

七月例会

尺牘の芸術性

杉村 邦彦

七月一四日(土)

於 楽友会館

九月二一日

楽友会館

横田健一「マッチ工業発達史」

エジプトから帰つて

清水 誠

小葉田淳「樹の制度」

一〇月一一日

東洋史研究室

◎終了後、小葉田教授・ハワイ出張の歓迎パ
ーティーを行なった。

「東洋史研究」二二—一合評会

九月例会

西洋史関係

九月八日(土)

於 楽友会館

西洋史読書会例会 於 京大西洋史研究室

楠瀬 勝「地頭の代官支配について」

九月二十二日(土)

『西洋史学』第五十四輯の合評

赤松俊秀「寺奴袖工説について」

九月二十九日(土)

村岡 健次

十月例会

パークの思想について

村岡 健次

十月十三日(土)

於 陳列館演習室

十月十三日(土)

叙任権闘争前のチェー
リングン貴族支配制

柴田 実「荒神考」

早川 良弥

小葉田理事の外遊

A Symposium: Approaches to
History ed. by H. P. R. Finberg
(London, 1962) など

小葉田淳理事は、ハワイ大学東西文化セン
ターの招きにより、九月五日羽田発で出発
した。なお、滞在は十ヶ月の予定である。

前川貞次郎

東洋史関係

十月二十日(土)

越智 武臣

大学院会例会

十月二十七日(土)

欽定憲法体制の保守的認識論
—プロイセンと日本の場合—

六月一日

楽友会館

清教革命の思想的決算

望田 幸男

「東洋史研究」二〇—四

合評会

神 戸 屋

六月一五日

神 戸 屋

編 集 後 記

四十五巻六号—今年度の最終号をお届け致
します。昨年からのおくれがようやく取り戻
せるめどが立つたというわけです。更に定期
的にお届け出来るよう編集委員会としても努
力を傾けますが、くどいようではあります、
会費による定期刊行物という本誌の性格に鑑
み、前納について御協力を要請する次第です。
先号本欄に於いて、朝尾委員が本欄に対す
る意見を開陳されましたが、時候の御挨拶的
な本欄は発展的に解消し、拡充することに對
する検討が進められて居ります。来年度第一
号からはスタイルを一新してお目にかかるこ
とでしよう。なお、京都大学偏重的な学界消
息欄についてもスタイルの一新についての検
討が同時に加えられて居ることを申し添えま
す。御期待下さい。(横山裕男)

一九六三年一〇月二五日印刷
一九六三年一二月一日発行 定価三〇〇円

史 林 (第四五巻第六号)

発行所 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

史 学 研 究 会

印刷所 京都市下京区西七条御所内東町三九
理事 長 宮崎 市 定
中 村 印 刷 株 式 会 社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XLV, No. 6 Nov., 1962

CONTENTS

- On "*Kamakura-dono-Otsukai*" 鎌倉殿御使 *M. Tanaka* (1)
—a study of the early system of the
Kamakura 鎌倉 Shogunate (1)—
- Conversion from the *Saionji-Hayashi* 西園寺 = 林
Line to the *Katsura-Komura* 桂 = 小村 Line in
the Policy towards Manchuria *J. Nakayama* (24)
—the Manchurian problem in the Russo-Japanese war—
- Genealogy of the *Chün-T'ien* 均田 Law *J. Tamura* (45)
- The Noble's System in Thuringia
before the Investiture Conflict *Y. Hayakawa* (66)
- Ancient Mirrors and Their Relationship
to Early Japanese Culture.....*S. Umehara* (97)
- note ;**
- A Process of the Making of Feudal
Estate in Early England.....*R. Tomizawa* (107)
—folkland and bookland—
- A Short Report on the Sinology in America.....*I. Miyazaki* (128)

Book Reviews and news

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan